



村はひとつ 学校はひとつ 願いはひとつ みんなで気づく（築く）さわやか天栄

2018.11.22



教育委員会だより No.88

魅力いっぱい 「愛村心（いふるこころ）」を育む天栄村！

発行：天栄村教育委員会

「ビリギャル」小林さやかさんの講演より



11月4日（日）、映画「ビリギャル」のモデルとなった小林さやかさんによる「天栄村教育講演会」が開催されました。ご存じのとおり、小林さんは、高校2年生まで文字通り「学年ビリ」のギャルでしたが、一念発起し、慶應大学に合格された方です。

今回の講演会では、「慶應大学にどのようにして入学できたのか」、「どんな勉強をしたのか」という、いわゆる「How to」ではなく、「何が自分を変えてくれたのか」ということを柱としてお話ししていました。その「何」にあたるのが、塾講師であった坪田先生との出会いと母親の存在なのだろう。簡単に説明すると、坪田先生は「コーチングの達人」、母親は「Beingで褒める達人」なのだろう。「コーチング」とは、「大切な人を目的の場所まで連れて行く」⇒「相手の能力を引き出すこと」ですので、「ティーチング」とは違います。「コーチング」の意識をもって子どもに接することは、主体的な学びを引き出していくことにつながり、これからの新しい教育に必要な教師の構えでもあると感じました。母親の「Beingで褒める」とは、「存在自体を褒める、認める」ことです。「お手伝いしてくれてありがとう」と行動を褒める「Doing」や「学年1位だなんてえらいね」などと、持っているもの、所属していることを褒める「Having」とは違い、「あなたが笑顔でいるだけで、先生は幸せなんだよ」や「あなたが片付けてくれたから、みんなが使いやすくなったんだよ」などと自分の存在価値を他者からの視点で褒め、認めることです。これは、子どもの学びや行動のよさに対する称賛や価値付けにもつながる視点であると感じました。

また、「勉強しなさい！」「こうするべきだ」と押し付ける「You メッセージ」ではなく、「私はあなたに勉強してほしい。ものを知る面白さを知ってもらいたいから」と自分の願望と理由を伝える「**メッセージ**」、要するにメッセージの主語を変換することで、子どもに自我が芽生え、自己肯定感を高めていくことについても、小林さんの経験からお話ししていました。

どのような人と出会うのかは、自分の力ではどうしようもない運命なのかもしれません、教師という職を選んだ我々にとって、目の前の子ども達との出会いは運命ではなく、必然なのかもしれません。これからは、偏差値重視の「最終学歴社会」から経験値（思考力+行動力）が重視される「最新学習歴社会」となっていきます。「自ら動き出し、答えは一つではなく正解は決まっていないことを学び、新たな挑戦を繰り返していく力」を引き出し、高めていくべく、教師という職の重さと責任、そして面白さややりがいを感じることのできた講演会でした。



天栄村文化祭では、天栄中学校の生徒が作成した「ARグルメマップ」が掲示され、たくさんの来場者がスマートフォンを手にして、天栄村の飲食店の情報を楽しむ姿が見られました。この「グルメマップ」の作成にあたり、中学生自らが飲食店に足を運び、店主の方に取材したり、実際に食べた感想をまとめたりしました。店主の方々のこだわりや夢について伺う中で、天栄村のよさを改めて実感した中学生。この活動は、今後のふるさとを学ぶ学習にも生かされていくことでしょう。

ARグルメマップ



生涯学習事業

村民一人一人が自己の能力を高め、生きがいを持って豊かで充実した人生を送れるよう、誰もがいつでも自由に学習機会を選択していけるよう、必要な学習環境を整え、村民の主体的な学習活動を支援出来るよう取り組んでいます。

○第5回市町村対抗福島県ソフトボール大会

10月13日（土）相馬市の相馬光陽ソフトボール場にて矢祭町と対戦しました。

初回から先制点を取り、その後一進一退の攻防を繰り広げ引き分けのまま試合を終えました。

残念ながら抽選により敗退し、天栄村チームは初勝利を逃しましたが、次に期待できるたくましいチームワークがそこにはありました。



○第54回天栄村文化祭

11月3日（土）、4日（日）の2日間にわたり、「第54回天栄村文化祭」が開催されました。

4日には様々な催しが開催され、午前中には各小学校の合奏が発表され会場には子ども達の日々の努力がみられる素敵な音色が響きました。また、中学校の応援団の演武が披露され、今年の中学校の特色がみられました。

村自慢大会ではそれぞれの発表者が個性を生かして、天栄村の良いところを発表しました。絵や歌での発表や、天栄の住み慣れているからこそ気づきづらい長所など、天栄村に対する郷土愛が感じられる大会となりました。

午後からは天栄村出身のタカサキユキコさんによるライブが行われ、きれいな歌声が会場を包みました。次に風船の国のアリスによるショーが行われ曲に合わせて風船を使って会場を盛り上げ、最後によしもと興業の芸人たちによる漫談や大道芸が会場を笑顔にし文化祭は幕を閉じました。

